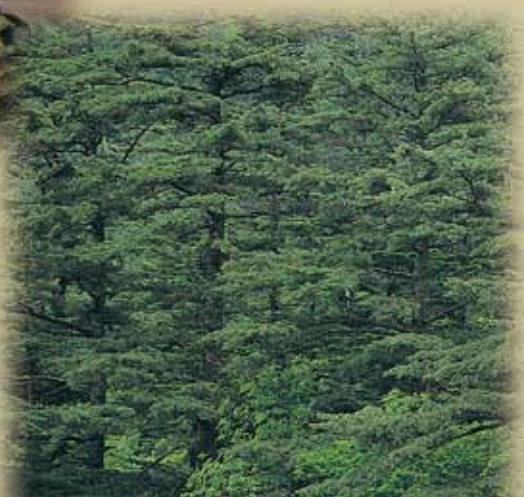


さまにの文化財



様似郷土館

S A M A N I T Y O U

様似のおたち

1635年(寛永12年)頃に海辺川(西様似)の支流で採金が行われ繁華な集落が形成されたと言われています。本格的に繁華するようになったのは寛政年間で、1799年(寛政11年)に幕府の使番・大河内善兵衛政寿が様似に駐留して様似山道を完成させ、翌年、エンルムにあった松前藩の油駒運上所が幕府支配のシャマニ会所に改められると、会所を中心として栄えていきました。

そして、1802年(享和2年)に蝦夷奉公の管下となった年を様似の開基と定めています。以来、様似町は永く水産業を中心として発展し、定着農業が始まったのは1885年(明治18年)と言われています。明治5年浦河に支庁が置かれ、1880年(明治13年)には戸長役場が開設されました。

1906年(明治39年)の二級町村制施行により八箇ヶ所を大字として様似村が誕生しました。この頃から多くの小学校が開校したり交通や通信体系などが整備されてきました。

さらに、1952年(昭和27年)基150年の年に町制を施行しております。



町章の由来

太平洋に突き出た様似発祥の地「エンルム岬」。この岬を中心として東に大港、西に小港を抱く姿をかたどり、さらに、様似町の産業が漁業と農林業の二面からなり、共に相抱く平和の姿を表現したものです。



町の木「日高五葉」

幌満地区に自生しているものが北限として国の天然記念物に指定され、数多い樹木の中であって、本町を代表する樹木です。常緑樹でその姿も優れており、「絶えない緑、伸びゆく様似」を表しています。



町の花「ヒダカソウ」

アボイ岳の高山植物群落は、高山植物の宝庫として国の特別天然記念物に指定され、その中でも、ヒダカソウはアボイ岳の固有種です。開花は5月上旬から下旬で、可憐な白い花を咲かせます。

様似郷土館

〒058-0024 北海道様似郡様似町会所町1番地 ☎(01463) 6-3335

様似町教育委員会

〒058-0014 北海道様似郡様似町大通1丁目21番地 ☎(01463) 6-2521

蝦夷三宮寺・等澍院（護摩堂）

所在地 ● 様似町本町2丁目
所有者 ● 帰鸛山厚沢寺等澍院キョウザンコタナジトウジヤン
構造・形式 ● 木造桁葊 現在トタン葺 単層宝形造 22.09㎡

幕 府は寛政11年（1799年）東蝦夷を直轄地にした。蝦夷地取締と警護のため幕吏、会所役人、南部津軽藩兵など、多くの人々が蝦夷地入りし、寒冷地で死者も出たが、弔う寺院がないため幕府は享和3年（1803年）蝦夷三官寺（様似の等澍院、有珠の善光寺、厚岸の国泰寺）の建立を決定し、文化3年にオコタヌシ（今の栄町）に等澍院が完成した。

護摩堂建立は、文化4年（1807年）第二世住職秀暁の請願により、第二世住職慈順代の文化8年7月に竣工された。

その後、オコタヌシが熊の害や川の決壊で、文政4年（1821年）には今の本町2丁目（現在の様似郵便局付近）に移転した。以来明治維新後に寺領手当てなどが支給停止により一時廃寺の悲運にあったが、明治32年等澍院が再興された。



等澍院古文書

● 昭和58年4月12日
● 平成12年9月8日
様似町指定文化財

町指定の古文書は、開山住職秀暁の選任（享和3年）から11世住職徳弁（明治9年）に至るまでの任職記13冊と汁物帳1冊過去帳（霊簿）1冊、書付（寺縁通減法通知書）1通からなっており、創世時からの一連文書で、任職記は本町最古の古文書として価値ある記録書である。



薬師如来三尊仏像

江戸時代末期（推定）

● 昭和57年10月10日指定 様似町指定文化財
寸法 ● 薬師如来像：51.6cm（光背台座共102cm）
日光月光菩薩立像：脇侍42.5cm（光背台座共73cm）
制作年代 ● 江戸時代後期（推定）
作者 ● 黒田 高山

伝来 ● 享和年3年（1803年）等澍院建立が決定し、上野・寛永寺の末寺観音寺住職秀暁が初代等澍院住職に任ぜられ、本尊と仏具が渡され、文化3年10月に等澍院で開眼供養が行われている。

聖観世音菩薩像

鎌倉時代（推定）

● 昭和57年10月10日指定 様似町指定文化財
寸法 ● 立像：55cm（光背台座共109.7cm）
制作年代 ● 鎌倉時代（推定）
作者 ● 不詳

伝来 ● 寛政年間にエンルム岬にエンルム三社（観音堂、船鬼社、稲荷社）があり、観音堂の本堂として祀られていたが、明治32年に等澍院再興の際に安置された。
注目すべきことは、像の背部に配した49本の光芒で、普通（48本より1本多い、どのような経路でエンルムに安置されたが不明であるが、様似最古の仏像である。

弁財天像

江戸時代前期（推定）

● 昭和57年10月10日指定 様似町指定文化財
寸法 ● 座像：20cm（光背台座共39cm 厨子全長50cm）
制作年代 ● 江戸時代前期（推定）
作者 ● 松井 右近

伝来 ● 安政4年（1857年）佐野屋専左衛門によって弁天社が建立され、主神として祀られたといわれています。
明治8年神仏混淆の整理の際、仏体のいわれをもつて等澍院に預けられたが、台座に「加州金沢下堤町宮内郷大仏師松井右近作之」と墨書銘があるが、年代や松井右近作之については不明である。

南無仏太子像（聖徳太子二歳像）

● 昭和57年10月10日指定 様似町指定文化財



所有者 ● 智教寺
骨質形状 ● 木彫（寄木造り、内誇り、彩色、玉眼入り）上げ墨座 厨子による構成
寸法 ● 立像68cm（台座共76cm 厨子全長127cm）
制作年代 ● 室町時代（推定）
作者 ● 不詳

伝来 ● この像は太子が2歳の春、釈迦涅槃の日に東方に向かって合掌されたとき、その掌中から釈尊の左眼の舍利が現出したという古今録抄の説話から造られたといふ。

仏像は目、口、鼻が中央部に集約され、緋の袴が左右腰の部分で大きく開いている異例なもので、南無仏太子彫刻史上貴重な作例であり、道内における室町彫刻の太子像はこれが最初の発見といわれている。

和助地藏尊

● 昭和44年3月1日指定 様似町指定文化財



所有者 ● 様似町字幌満
管理者 ● 幌満自治会
構造形式 ● 御影石造り座像、座石を含めて90cm
制作年代 ● 不詳
作者 ● 不詳

伝来 ● 寛政11年（1799年）様似山道開削工事たけなわの頃、南部から一人の若者がホロモンベツにやて来て、山道開削を手伝ったり旅人の利便を図った。また、地域の雑事にも自ら進んで協力し、その人柄や献身的に協力する姿は地域の人々から絶大の信頼を寄せられていた。その人が斎藤和助であり、数々の功績を残し91歳で天寿を全うしたが、没後、その遺徳を讃え霊を慰めるため、様似場所請負人・近江屋藤重郎と幌泉場所請負人・福島屋善四郎らが和助地藏として建立した。





●埋藏文化財包蔵地

(昭和48年12月5日 14力所、同55年5月15日 14力所)

今から、約3,000年前の縄文時代、先住民族が残した生活用品（土器類）や狩猟用具（石おの、やじり、石小刀類）などが、町内のいたるところから発見され、昭和48年と54年の調査で合計28カ所が文化庁から「埋蔵文化財包蔵地」として承認された。

以下、登録箇所と出土品は次のとおりです。

番号	名 称	出 土 品	所在地	番号	名 称	出 土 品	所在地
1	エンルムチャン跡	チャン跡	会所町	15	鶺鴒沢遺跡	続縄文・擦文土器片、剥片	鶺 鴒
2	観音山遺跡	縄文土器、石鍾、石おの	潮見台	16	塩釜遺跡	江戸時代鉄釜破片	鶺 鴒
3	オコタヌン遺跡	縄文・擦文土器片、やじり	栄 町	17	栄町台地遺跡	縄文やじり	栄 町
4	西町1遺跡	縄文やじり	西 町	18	岡田2遺跡	続縄文・擦文土器、やじり	岡 田
5	西町2遺跡	縄文・擦文土器、石鍾他	西 町	19	朝日丘1遺跡	縄文石おの・石やり	緑 町
6	クリシナイ台地遺跡	縄文土器、石さじ他	西 町	20	朝日丘2遺跡	縄文土器片・やじり	大通3丁目
7	栄町坂遺跡	縄文・続縄文・擦文土器他	栄 町	21	平宇2遺跡	縄文土器	平 宇
8	禪輪寺裏山遺跡	縄文・続縄文・擦文土器他	栄 町	22	平宇3遺跡	縄文土器	平 宇
9	岡田1遺跡	縄文土器、石やり、石小刀	岡 田	23	白里谷遺跡	縄文土器片、剥片	平 宇
10	本町台地遺跡	縄文・擦文土器、石おの他	本町・栄町	24	コトニ遺跡	縄文土器片、炉焼土	冬 島
11	冬 島 遺 跡	縄文土器、やじり、石小刀	冬 島	25	幌満1遺跡	縄文石おの、やじり	幌 満
12	平宇1遺跡	縄文土器、やじり、石小刀	平 宇	26	幌満2遺跡	縄文土器、やじり、石小刀	幌 満
13	潮見台遺跡	縄文土器、やじり、石小刀	潮見台	27	旭 遺 跡	縄文やじり	旭
14	エンルム遺跡	縄文・続縄文・擦文土器他	会所町	28	東金山遺跡	江戸時代金採掘跡	新 富

●さまにの名勝

番号	名	勝
A	ローソク岩とオショロコツ	
B	ホタフンベ(すり鉢山)	
C	親子岩(ウンベレブンケ)	
D	観音山(ソビラヌブリ・西国33カ所の石仏像)	
E	ソビラ岩(ソビラレブンケ)	
F	エンルム岬	
G	うのとおり岩	
H	アボイ岳	
I	アボイ山麓自然公園	
J	様似山道	
K	日高耶馬溪(冬島～幌満間の約7 km)	
L	幌満ゴヨウマツ自生地	
M	幌満ダム	
N	様似ダム	

●遺跡・旧跡

番号	名 勝
a	砂馬荷仮造船所(栄町付近)
b	シャマニ台場
c	塩釜の製塩跡(1,800 年代)
d	シャマニ会所(会所町、昭和32年台風で倒壊)
e	シャマニの酒造方(栄町鉄橋付近)
f	エンルムの泉
g	冬島のボン番屋
h	様似の官庫
i	和助地藏尊
j	東金山鉱山跡
k	東瀨院

●その他の文化財

平宇山道（大通3丁目～東平宇までの約5km）

アポイ岳のナキウサギ

観音山のアイヌチャシ跡

ウンベ軌道（西様似）

ガンビの神様

キリシタン井戸跡

会所御長屋

渡船場（栄町付近）

シャマニ酒造所（栄町）

駅馬所と放牧場（栄町禅輪寺裏山、幌満、旭生活館裏）

原田旅宿跡（様似山道）

アポイ岳 高山植物群落



アポイアズマギク



エゾコウバンナ



サマニオトギリ



アポイクワガタ



アポイマンデマ



ヒダカイワザクラ



〈国指定特別天然記念物〉

アポイ岳高山植物群落

所在地	● 様似町字冬島
指定	● 昭和27年3月29日 国指定特別天然記念物
管理者	● 北海道

アポイ岳(8106m)は、日高山脈の最南端の西海岸に位置する山で稜線上に連なる吉田山、ヒンネシリを含めアポイ山塊と呼ばれています。一般的な山ではは樹木に覆われ主に平地の植物が育つ高さであるが、この山は海からの濃い霧と特殊な地質の影響により、ヒダカソウ、エゾコウソリナ、アポイカンバなどアポイ岳のみに植生している固有種も多く、80種以上の貴重な高山植物が確認されています。中でも町花に指定されている「ヒダカソウ」は昭和60年5月に日本高山植物シリーズの特殊切手のひとつとして発行されました。また、かんらん岩により変化した植物も十数種あり、世界に知られる高山植物の宝庫であります。

昭和14年に天然記念物として、昭和27年には、国の特別天然記念物に指定され、登山道も整備され、年間を通して楽しめるが花のみのころは5月～7月がピークです。



サマニユキワリ

〈様似町指定文化財〉

様似山道

所在地	● 様似町字冬島、幌満
指定	● 昭和60年11月19日 様似町指定文化財
行程	● 6,816m(1里27町9間)

幕府は、寛政11年(1799年)東蝦夷地を直轄地にすると同時に、警備および産業上から道路の開削を急務とした。

この年、蝦夷地取締御用を命ぜられた大河内善兵衛正寿は、シヤムに至って、中村小市郎に難所の「シヤム山道」(冬島～幌満間)などの開削工事を担当させ、7km弱の山道には、「ト」小休所が設けられ、明治6年(1873年)



には山中に旅籠屋「原田宿」が建った。

海岸道路工事は、昭和2年(1927年)には完成し、「シヤム山道」は自然に廃道になったが、現在「様似山道」(約7km)として様似町の文化財に指定し、保存をはかり住時の姿をほぼ保っている。

〈国指定天然記念物〉

ヒメチャマダラセセリへ高山蝶

棲息地	● アポイ岳周辺
指定	● 昭和50年2月13日 国指定天然記念物
指定区域	● 北海道一円

ヒメチャマダラセセリはセセリチョウ科の二種で昭和48年様似町のアポイ岳で発見されました。

このチョウは、ヨーロッパやシベリア、中国東北部に分布するがわが国ではアポイ岳周辺のみ隔離分布していることから遺存種と考えられる重要なものであります。

チョウの大きさは羽を開いたときで2cm程、羽の表は全



体にこげ茶色で裏は黄かつ色で黄色かつた斑点があります。

キンロバイ(高山植物)の葉裏などに0.6cm程の卵を一つつ生み、10日程で幼虫となり9月始めから約3ヶ月かかってサナギとなり、冬はサナギで過ごし5月から6月中旬にかけて成虫になるといわれています。

〈国指定天然記念物〉

幌満、ゴウマツ自生地

所在地	● 様似町字幌満	面積	● 335ヘクタール
指定	● 昭和18年8月24日 国指定天然記念物		
管理者	● 北海道		

北海道における「ゴウマツ」自生地は、渡島半島の厚沢部町と様似町幌満の2団地に限られ自生地北限地として指定を受けています。キタゴウマツ科(ハインツ)ともに「ゴウマツ」類に属し、葉のつき方を見るとひとつのまやから5本の葉(針葉)が出ていることが名前の由来になっています。

